

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

海上保安庁情報誌
Japan Coast Guard Journal

Vol. **66**
2016 SPRING

南熊本の要所を守り 若手育成を担う

特集

第十管区海上保安本部 熊本海上保安部
八代海上保安署



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **66**

2016 SPRING

PHOTO GRAVURE

- 1 1月18日は「118番の日」
- 1 「たらま」、「いけま」、「いらぶ」石垣で入港式
- 2 海上保安庁の一世代を担った翼ベル212
～MH930ラストフライト～
- 2 伊勢志摩サミットをテロから守れ！
～松坂港でテロ対策合同訓練実施～
- 3 6年間贈り続けられたクリスマスカード
～搬送した少年からのありがとう～
- 3 この冬初の海水観測

[特集]

第十管区海上保安本部

- 4 熊本海上保安部 八代海上保安署

南熊本の要所を守り 若手育成を担う

TOPICS

- 10 八代 エトセトラ
～特集では伝えきれなかった八代をここで～

- 12 **NEWS FLASH**

裏表紙

INFORMATION

「118」番は海の緊急電話です





海上保安庁では、平成22年度から毎年1月18日を「118番の日」とし、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解してもらうため、全国で周知活動を行っています。

118番とは、海上保安庁の緊急通報用電話番号で、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等

の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年5月から導入されたものです。

118番通報がきっかけの事例には、磯釣り中の釣り人の救助や、密漁者の検挙などがあり、どれも118番通報からの素早い対応によるものです。

Photo Gravure
1
1月18日は「118番の日」



12月11日、沖縄県石垣市の石垣港において、尖閣専従船「たらま」、「いけま」、「いらぶ」の入港式が挙行されました。

3隻の巡視船は、11月25日に各船それぞれの造船所において行われた引渡式の後、各種訓練等を実施しながら石垣島へ回航し、入港式当日の午前中に3隻が揃いました。

入港式では、宮崎一巳石垣海上保安部長から「PL型巡視船の基本を忘れることなく、覚悟と自信と誇りを持って、“21世紀の防人”としての使命を全うされたい。」との訓示がありました。



Photo Gravure
2
「たらま」、「いけま」、「いらぶ」
石垣で入港式

海上保安庁の一世代を担った翼
ベル212とMH930ラストフライト



12月1日、第二管区海上保安本部仙台航空基地所属の日本で最後のベル212がラストフライトを行いました。

ラストフライトとなるしょう戒準備中、遭難信号を受けた第二管区海上保安本部からの指令を受け、急遽救難事案に対応することとなりました。

刻々と変化する天候の中で調査を続け、遭難信号が海難に起因する事案ではないことを確認し、当庁最後の任務を完遂しました。

海上保安庁の一世代を担い、国民の期待に応え多くの人命を救助し、そして多くのクルーを育てたベル212。最後は救難事案に対応し、有終の美を飾りました。

伊勢志摩サミットをテロから守れ！
松坂港でテロ対策合同訓練実施



11月26日、三重県松阪市松坂港中央ふ頭及び前面海域において、鳥羽海上保安部、松阪警察署等13機関で構成される松坂港保安委員会と三重県警察本部が合同で「平成27年度松坂港保安委員会テロ対策合同訓練」を実施しました。

想定外国船への立入検査訓練では、女性海上

保安官が班長を務め、海上保安官や警察官、税関等の屈強な男性職員を整列させ「立入検査かれ！」の勇ましい号令の元にテロリストが潜む外国船の立入検査を実施し、テロリスト発見から取り押さえまでを指揮し、臨場感溢れる訓練の重責を見事全うしました。



石垣航空基地から少年へのクリスマスプレゼント

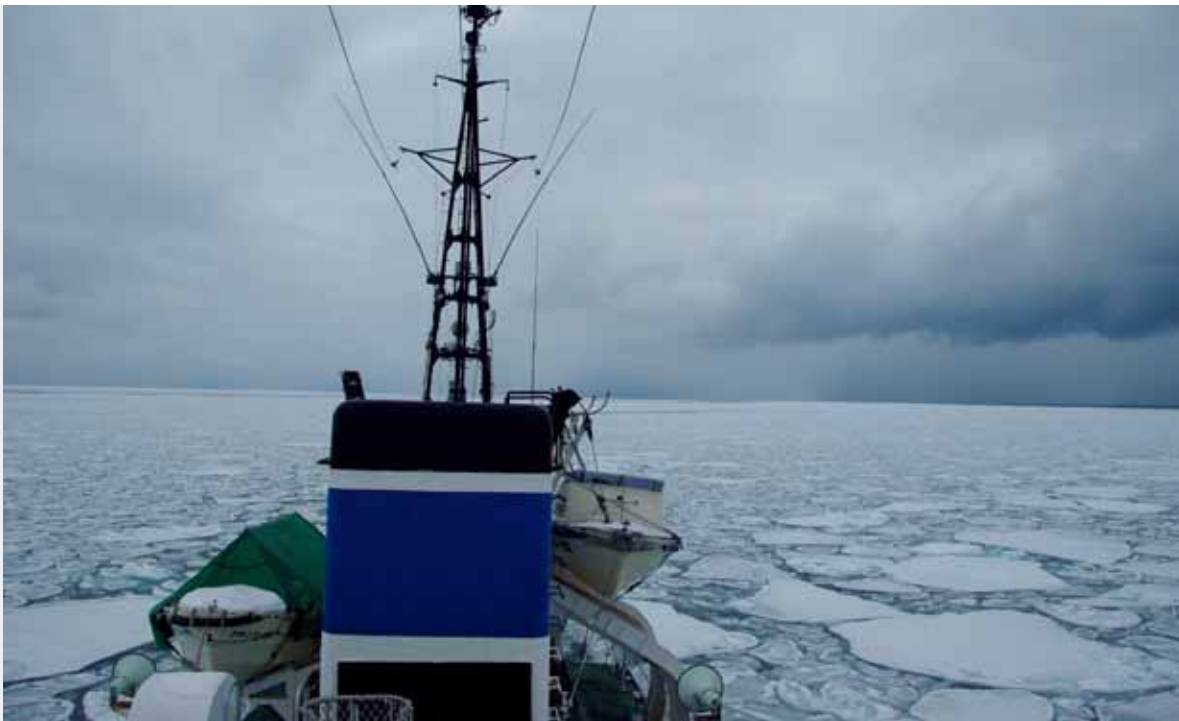
6年間贈り続けられたクリスマスカード
搬送した少年からのありがとう

石垣航空基地には、6年前の平成21年から毎年、クリスマスの時期になると兵庫県在住の少年からクリスマスカードが届いています。

その少年は、6年前、当時小学1年生の夏休みに家族で沖縄県西表島の観光に訪れた際、海で溺れ心肺停止になりながらも、石垣航空基地のヘリコプターで病院まで搬送され、一命を取り留めた少年です。

それから6年間、毎年少年からのクリスマスカードと共にお母様からのお礼が届けられていましたが、少年が中学生になったのを節目として、今年が最後のクリスマスカードとなりました。

石垣航空基地職員一同、少年とお母様からの心温まるクリスマスカードを通じて離島急患輸送業務の重要性を再認識し、今後もより安全、誠実、迅速に業務を行うことを改めて誓いました。



この冬初の海氷観測

巡視船「そらち」は、枝幸港の東北東約77キロメートル沖合で1月18日午前、巡視船では今期初となる海氷を観測しました。

観測された海氷は、大きさが直径30センチメートルから3メートルの「ハス葉氷」が中心で、水平線に至るまで真っ白な氷の世界が広がっていました。

昨年10月に配属となったばかりの航海士補は、

初めて経験する氷海航行に興奮さめやらず、甲板上から写真を撮ったり、氷の様子を眺めたりしていました。

この後「そらち」は母港の紋別には戻らず、オホーツク海から海氷が消える3月中旬までの約2ヶ月間、毎年恒例となる「海氷派遣」を行い、他の港での任務や船舶の修理を行うこととなります。

南熊本の要所を守り 若手育成を担う

半島や島々に囲まれ、穏やかな様相を見せる八代海は

熊本県南部の流通と交通を支える要所として古くから賑わってきた狭い航路に多くのコンテナ船やタンカー、客船、漁船が行き交い

中国や韓国からの外国船も多く訪れる中で

海の安全・安心を守る八代海上保安署の日々をレポートする

取材・文／中島敦（オンライン）



平成25年5月に分室から保安署に格上げされた八代海上保安署。1階には八代税関支署が入る。

**多忙、多彩な業務に合わせて
保安署に格上げ**

熊本の西南部、宇土半島と天草諸島に囲まれた八代海は、年間を通じて穏やかな海に恵まれ、豊かな漁場と活発な航行で賑わいを見せる。その八代海の東側半分を担当水域とし、八代港、水俣港、佐敷港といった港則法適用港や貿易港を受け持っているのが八代海上保安署（以下、八代保安署）だ。

熊本県内最大の港である八代港は、九州自動車道に至近であることから博多、宮崎、鹿児島と、いずれの方面にも迅速にアクセスでき、熊本県南部地域の物流の拠点としての役割を担う。外国船の出入港も多く、さらに近年は大型客船も訪れるようになり、人と物の出入りは増加傾向にある。このような状況に対応すべく、それまでの熊本海上保安部八代分室が保安署に格上げされたのが平成25年のこと。また同年10月、八代港も特定港に指定されている。

保安署への格上げについて、八代保安署を指揮する前島学署長は「増え続ける業務ニーズに対応するため。継続的な地元からの要望もありました」と説明する。年間を通じて1000隻を数える外国船が入港し、テロの未然防止といった治安の確保はもちろん、密漁対策や船舶航行の安全の確保といった日々の業務など、分室の人員で賄うには決して十分ではなかったという。また分室時代は八代海北部のみを担当し、南部は熊本海上保安部の管轄であったが、保安署への格上げに

第十管区海上保安本部 熊本海上保安部

八代海上保安署



「保安署長を務めるのは八代で4回目」と語る前島学八代海上保安署長。「組織が小さいのでダイレクトに業務に係わることができ動きも早い」のが保安署の強みだという。

合わせて北部から南部までまとめて八代保安署の管轄となり、より効率的な体制となった。

現在、八代保安署は総勢14名で、複数クルー制の巡視艇「なつかぜ」が配属されており、「なつかぜ」は使用管理艇「M-1」を有している。

年齢構成は20〜30代と50代が占め、中堅となるべき40代が1名もいないのは、近年の保安部・保安署に多い悩みといえよう。

八代港の大島石油基地には石油とガスの事業所があり、年間約800隻の小型タンカーが入港する。同基地で取り扱う石油貨物量は約90万キロリットルに及び、熊本県内の石油製品需要の半分以上を占め、石油コンビナート等災害防止法上の特別防災区域に指定されている。また水俣港には木材揚場があり、同港に入港する外国船舶の大半は木材運搬船だ。



16万7800トンの客船クワンタム・オブ・ザ・シーズが入港した際は、3000~4000名もの観光客が一挙に入国。120台以上の観光バスが集められた。これらはすべて日帰りツアーだ。

「日本製紙があるので木材のチップも入ってきますが、逆に最近は住宅用として韓国への木材輸出も増えています。時代背景が変わるのに合わせて輸出入する物も変わってきています」と前島署長。

このように外国船の入港が多いことから、船舶への立入検査はもちろん、税関や警察と連携しての業務も恒常的に行われている。また、八代港が重要港湾に指定された後、八代市は積極的なポर्टセーブルスで客船を誘致しており、近年は海外からの大型客船の入港も多く、平成26年度には「にっぽん丸」、「飛鳥II」、「コ



スタ・アトランティカ」が入港。平成27年には16万7800トンの「クワンタム・オブ・ザ・シーズ」が訪れ、一度に3000人を超える観光客が入国、調達された観光バスも120台を超えると大騒ぎとなった。

「あの時は、早く上陸させろというブーイングが出たりして、さすがに税関も大変そうでした。このような大型船の航行時には必ず1隻は航路警戒船を配備しますし、ボランティアの方海難救助隊の方が事前に港を回って大型船の入港を周知してくれたりするので助かっています」と前島署長。「大型船は小回りが効かないので航路筋に小さな船がいても避けられませんが交通安全指導も徹底します」

取締りによる検挙事案としては、昨年、鹿児島航空基地の航空機と連携して密漁漁船3船団9名を検挙した。また珍しい事件としては昨年、八代港内在泊中の作業台船内における電子計算機損壊等業務妨害事件を検挙した。職場でのいざこざを原因にパソコン電源やLANケーブルといった配線類を切断し、ノートパソコン4台を海中に投棄したものだ。当初は窃盗事件として捜査を進めたものの現場状況から内部犯行の疑いが濃厚になり、パソコンが海中に投棄されている可能性がある。鹿兒島海上保安部巡視船「さつま」及び潜水士の派遣を要請し同潜水士が捜索、予想どおり海中からパソコンを発見したものだ。ちなみに電子計算機損壊等業務妨害という事案は、海上保安庁として初めての扱いだったという。



社内のいざこざが原因で作業船内の回線を切断、パソコンが海中に投棄された電子計算機損壊事件。ヘド口の海底を潜水士が搜索してパソコンを発見、事件解決に繋がった。

頻繁に入港する外国船舶への立入検査は、巡視艇「なつかぜ」の重要な任務のひとつだ。密入国や拳銃、麻薬などの密輸入を水際で防ぐため、立入検査を実施している。

「今のところ八代で大きな事案はありませんが、全体で見れば麻薬の密輸が多いですね」と「なつかぜ」の迫田孝次船長は説明する。「立入検査では書類検査から始まり、乗組員の部屋や機関室、倉庫など船内を調査します。以前、税関と合同で麻薬探知犬を同行させたことがあり、探知犬が反応したこともあります。その時は徹底的に検索しましたが肝心の麻薬は出てきませんでした。おそらくは以前に麻薬を保管しており、匂いが残っていたのでしょう」



「以前は大きな巡視船にも乗りましたが最近はCLが続いています」という迫田船長は、八代は2回目の勤務。漁業施設の多い浅瀬の海域では、夜間の航行など操船に細心の注意を払う。

たのでしょう」

一時に広大な船内を効率的に、そして漏れなく検索するために、禁制品の特徴や流行、隠ぺい方法といった情報にアンテナを巡らせ、「なつかぜ」では定期的に研修を実施し知識と捜査手法の研鑽に努めている。さらに外国人相手ということで、八代保安署には外国語を駆使して捜査を行う国際捜査官が在籍している。

漁業関係では前述したように密漁対策等の取締りはもちろん、プレジャーボートも含めて救命胴衣着用を呼び掛けている。ただ、漁業者の着用率は思うように高まらないのが悩みの種だ。比較的穏やかな内海であることも、「昔から救命胴衣を着ていないから（救命胴衣なしで大丈夫）」という過信に繋がっているようだ。

密漁取締りや海事関係法令取締りなど、八代保安署で扱う事案の数は第十管区の中

でもトップクラスの多さだという。業務内容も多岐にわたる、しかも多くの事案を経験できる現場であることからやりがいがあると若手からの勤務希望も多い。

実務の多さが若手の育成につながる

第十管区の中でも熊本県はプレジャーボートや小型漁船といった、小型船舶の在籍数がいちばん多く、それだけに違反や衝突といった事故も多い。またCL型巡視艇では取り調べから書類作成、送致までを担当するため、短い期間で経験を重ね、捜査能力を身につけていくことができるという。

「それだけに若手の育成が期待されています」と迫田船長。「経験を積み重ねることで怪しい船やその動きが分かってくるから、見る目を養うことが大切です。取調べも、相手をしっかりと観察し矛盾点を突かなければならない。もちろん知識もないと相手の嘘を見抜けませんが、簡単なことではありませんが、そういった技術を短期間に伝えていかなければなりません。」

私はあと2年で定年を迎えますが、ここまでやってこれたのは仕事に誇りが持

てたからと思っています。海難救助で溺れかけた人を助けたこともあり、違反船を検挙し法令を励行しているという誇りもあります。若い世代の人達も海上保安官としての誇りを持って欲しいし、自分の仕事が漁業者、海運関係者、そして国民のためになっているという意識を持って欲しい。難しいけれどやりがいのある、しっかりと取り組めば何10年も取り組んでいける仕事だと伝えていきます」



八代港を望む合同庁舎2階が拠点となる八代保安署。膨大な業務をこなすために一人一人が意識を高く持って勤務している。



八代海をしょう戒する「なつかぜ」。穏やかな内海だが、それゆえに不注意で衝突事故を起こしたり、救命胴衣を装着しない漁業者が絶えないとも。

中堅となる海上保安官の早期育成は、海上保安庁全体が抱える課題だ。追田船長の言葉には、現場経験を求めて志望してくる若手を育てていくことへの大きな責任が滲んでいた。

若手の早期育成が求められている背景について、前島署長はこう説明する。

「従来、海上保安学校を卒業した若手職員は、まずは大型の巡視船に2〜3年間乗船して海と船についての経験を重ね、その後小型の巡視艇で幅広い任務に就くというパターンがありました。近年はその期間が短くなり十分な経験を積み

ないまま取締りや海難救助業務に就くようになっていきます。その分、現場での指導監督が求められますが、その業務を担う中堅職員も不足しているのが実情です」

若手とベテランのギャップを埋める中間層不在の中で、船長や機関長といった上の世代が一部始終に目を配らせ、何よりも事故を起こさないように注意し指導しながら業務を行なっているという。

八代保安署は業務遂行の基本方針として「常に備えよ」、「誇りある組織たれ」、「地域に密着した業務遂行」と掲げている。



若手海上保安官の声

巡視船「なつかぜ」航海士補 岩崎 祐亮 (28歳)

「もともと海上自衛隊に入ったのですが、組織が大きいので自分が関わることのできる範囲がどうしても限られていました。海の仕事、かつ公務員であることから改めて当庁に入りました。警備業務から救難業務まで、いろいろな業務に携わることができるのが魅力と感じています。

最初に潜水指定船の「いそなみ」に配属され、潜水士になろうかと考えた時期もありましたが、色々な先輩方の話を聞いていくうちに、海事法令取締り等の刑事業務の道に進みたいと考えようになりました。そこで第十管区で取り扱うことのできる韓国語の語学研修も受け、国際捜査官になりました。韓国語という武器があれば、いざというときに『岩崎、頼むぞ』と頼りにされる。即戦力になりたいという気持ちもありました。ただ、1年間みっちり叩き込まれた韓国語ですが、やはり使わないでいると鈍ってきます。八代は立入検査など使う機会がありますし、本部でも研修やテレビ会議などで韓国の方との研修を組んでくれているので助かります。休日は韓国ドラマのDVDを観て、語学の研鑽に励んでいます。元KARAのク・ハラさんのファンなので(笑)。

刑事業務を選んだ理由のひとつに、研修などでお会いする先輩方々への憧れもありました。皆さん法律に詳しく、さまざまな経験を積んだ上での話にも惹きつけられました。自分が同じ年代になったときに、この人達のようになれるのだろうか？ 超えられるのだろうか？ 自分が受けたのと同じようなインパクトを、若い世代にも与えられるようにしたいと思っています。仕事に悩みは付き物ですが、悩んだ分だけ勉強になるし成長できているんだと実感しています」



巡視船「なつかぜ」航海士補 西田 啓志 (25歳)

「海上保安官になろうと思ったきっかけは小さい頃の体験です。海の日や空の日といったイベントがあり、船の中や空港の管制塔を見学したんです。ペーパークラフトを貰って帰って、家に飾ったりとかしていました。小学生の時からずっと空手とハンドボールをやっていたので、身体を動かすのが好きというのもあります。

海上保安学校を出て最初の1年半はP S型巡視船に乗っていたのですが、その後C L型巡視艇に。今の「なつかぜ」と同じタイプです。初めてC L型に乗ったときは何が何だか分からず苦労しましたが、先輩の方々に助けられて仕事を覚えることができました。今もそうですが、「今日はこれを学んだ」ということが1日にひとつはあります。

その時の先輩で、元々は民間の船に乗っていた方ですが、出入港作業中に「お前、もっと気を張れ！ ひとつ間違えたら指切断するぞ！」って厳しく指導してくれた人がいました。「常に気を張り続けることはできないけれど、ここは注意しなければというときは気を張れ」と。その言葉は今でも印象に残っています。

どの仕事も同じでしょうが、いくら経験を重ねてもひとつ分かるとまたひとつ分からないことが出てきます。また、これからは後輩からのプレッシャーもあります。これまでは短いスパンで異動し下っ端でしたが、後輩ができれば指導していかねばなりません。これは少しプレッシャーなんですけど、自分だけで考えず色々な人に話を聞いて学び、それを下に伝えていきたいと思います」



八代海北部は遠浅の海域を活用した海苔の養殖や定置網漁などが盛んだ。干潮時には広大な干潟となる海域だけに、小さな漁船に接するときなど、浅瀬でも迅速に行動できる使用管理艇「M-1」が威力を発揮する。



現在も続くうたせ網漁業では、機械を使わずに帆をかけた船を移動させながら網を出し、海底の砂中の赤エビを獲る。珍しい船ゆえ最近では観光客を乗せ漁を行なうことも。



八代で獲れる一本釣りの太刀魚は近年高値で取引され、時には50隻もの漁船が集まることも。釣り上げても手で触れることなく水槽に入れ、傷つけないよう注意して水揚げされる。

「事案件数の多いこの地で経験を重ね、八代で鍛えられていれば他の部署に行っても安心だと思ってもらえるような人材を育てなければなりません」と前島署長は締めくくった。





八代 エトセトラ

特集では伝えきれなかった八代をここで

● 妙見祭



「これは龍? でも亀みたいな甲羅もあるし……?」

うみまる・うーみん八代バージョンに登場するのは九州三大祭り「八代妙見祭」で登場する亀蛇(キダ)です。通常「ガメ」と呼ばれていますが、西暦680年に中国大陸から海を渡って八代に妙見神がやって来たときに乗っていた亀と蛇が合体した神獣と伝えられています。八代妙見祭は江戸時代から400年近く続いている国の指定重要無形文化財でもあり、妙見神社には、ガメの石像も祀られています。ガメは「どんな重い任務を背負ってもそれを着実に遂行できる力を持つ」とされ(まさに海上保安官!), この石像の頭を撫でれば幸福になり、お尻を撫でれば病気がないと伝えられています。

● 八代の史跡



松浜軒



金波楼



市内に残る八代城跡は、1622年、加藤正方が新築した平城で、江戸幕府が日本の要と位置付けた重要な城のひとつです。本丸の北西隅にある大天守台には、外観4層・地下1階の大天守閣があったとされますが、築城からわずか50年後に落雷のため焼失し、その後再建はされませんでした。

松浜軒は元禄元年(1688年)に松井家4代直之が創建した茶庭で、当時は八代海を見渡す浜辺に面し、松林が連なる景勝地であったことから名づけられました。

日奈久温泉(ひなぐおんせん)の金波楼は明治43年創業の老舗旅館。木造3階建ての建物としては熊本県最大と言われています。

八代の特産品



八代の特産品と言えば、晩白柚（ばんぺいゆ）！ザボンの一種ですが、特徴はなんといってもその大きさで、直径25cmを超えるものも珍しくないそうです。2005年には八代市の農家で収穫された晩白柚が、世界で最も重いザボン類として、ギネス世界記録に認定され、そのレプリカは今でも八代市役所に展示されています。

八代焼とも呼ばれる高田焼は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に加藤清正公に従って渡来した陶工が開窯したのが始まりとされています。高田焼の特徴である象嵌青磁の技巧は朝鮮の高麗時代に発達したもので、日本では現在、高田焼だけがこの技法を守っています。



EVENT



先に述べた妙見祭をはじめ、八代市ではさまざまな祭りやイベントが開催されています。みなと八代フェスティバルは八代外港一体で開催され、海上保安庁や海上自衛隊の船艇への体験航海や船内見学も実施されます。やつしる全国花火競技大会は、毎年10月に球磨川河川緑地で開催されるもので、全国の有名花火師が技と技術を競います。



石匠館

八代市内東陽町には見事なアーチを描く石橋が残されています。江戸末期から明治時代に高い土木建築技術で活躍した石工集団「種山石工」によるもので、灌漑や干拓に活用され、人々の生活を支えてきました。石匠館はこの「種山石工」を紹介する資料館です。



船出浮き

獲れたての魚介類を無人島で味わう船出浮きは、漁師と一緒に漁船に乗って八代海に昔から伝わる伝統漁法を体験する海のレジャーです。春はイカ籠漁、夏から秋は力二網漁など、季節によって漁法や獲物も変わります。

河童渡来の碑

河童伝承は全国津々浦々に残っていますが、中国から日本に河童が渡来した地として、八代市には「河童渡来の碑」があります。江戸時代に菊岡沾涼という人が記した「本朝俗諺志」には「中国の黄河にいた河童が一族郎党引き連れ八代にやって来て球磨川に住み着くようになった」と記されているのです。



エトセトラ

NEWS FLASH



大学校

恒例の耐寒訓練を実施

1月8日~22日 海上保安大学校



学校

初調理実習

12月13日 海上保安学校



学校

舞鶴市成人式に参加

1月10日 海上保安学校



海洋部

「ごんどう」ペーパークラフトが完成

11月14日 本庁海洋情報部



一管区

巡視船ようてい 解役式

12月21日 小樽海上保安部

ホッキョクグマ 「ミルク」を 1日海上保安官に任命

1月18日 釧路航空基地



一管区



二管区

人命救助した 短大生、高校生 兄弟に部長表彰

1月5日 釜石海上保安部



二管区

巡視船おしか解役式

1月20日 宮城海上保安部



四管区

四日市年末年始特別警戒出動式

12月10日 四日市海上保安部



巡視船するが解役式

1月20日 下田海上保安部



初出動はニャン命救助!

1月1日 茨城海上保安部



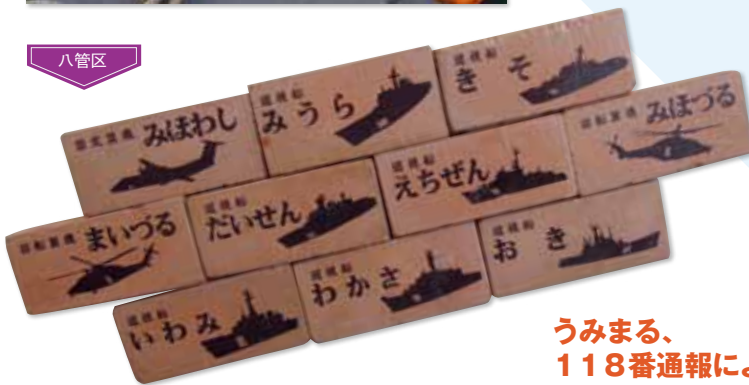
年頭潜水訓練

1月2日 呉海上保安部



絶景 だるま夕日

1月1日 宿毛海上安署



**「赤レンガマグネット」
八管巡視船&航空機シリーズ完成 !!**

11月30日 第八管区海上保安本部

**うみまる、
118番通報により
保育園へ出動!**

1月14日

長崎海上保安部



**宮崎サンシャインFMでの
マリンレジャー安全推進活動**

12月4日 宮崎海上保安部



巡視船やひこ訓練初め

1月7日 伏木海上保安部

海

でこんな事件/事故があったら…

「船を**乗り揚げ**てしまった…」
 「サーファーが**流された**…!？」
 「海に**大量の油**が浮いているよ！」
 「**密漁**している人がいる」



直ちに海保が出動!

「**118**」番は
海の緊急電話
です

海の事件/事故

「**118**」番通報では
こんなことを聞きます

1. 「**何**」がありましたか
船の火災、遭難、密漁…?
2. 「**場所**」はどこですか
地名、GPS位置、付近に見えるもの…?
3. 通報者は「**誰**」ですか
船長、船の乗船者、目撃者…?
お名前…など

間違いや
いたずら電話
はやめてね!



海上保安庁
JCG